

《原 著》

骨軟部腫瘍の良悪性鑑別における ^{201}Tl シンチグラフィの 視覚的および定量的評価の検討

——SPECT を中心に——

松井 律夫*	小森 剛*	土井 健司*	中田 和伸*
田淵耕次郎*	雑賀 良典*	宇都宮啓太*	足立 至*
清水 雅史*	末吉 公三*	檜林 勇*	森下 忍**

* 大阪医科大学放射線医学教室

** 同 整形外科

要旨 骨軟部腫瘍 48 例 (悪性 17, 良性 31) を対象として, 早期および後期にて ^{201}Tl -SPECT を施行し, 良悪性鑑別におけるその有用性を検討した。視覚的には腫瘍部に早期像で高集積を示し, 後期像で依然として高集積が確認できるものを悪性とし, それ以外のものを良性とした。定量的には腫瘍部の対側健常組織との集積比 {early ratio (ER), delayed ratio (DR)}, 腫瘍部の早期像と後期像での集積比 {tumor delay/tumor early (Td/Te)}, 同じく健常部位での集積比 {normal delay/normal early (Nd/Ne)} を求めた。視覚的評価では悪性腫瘍 16 例に集積を認め, 良性腫瘍 12 例は集積を示さず, 正診率 = 85.4%, 有病正診率 = 94.1%, 無病正診率 = 80.6% であった。定量評価では悪性および良性の ER はそれぞれ 5.5 ± 3.7 , 2.7 ± 2.2 (平均 $\pm$ 標準偏差) で有意に悪性が高く, DR は有意差を認めなかった。ER が 3.9 を超えるものを悪性病変とすれば 85.4% の正診率が得られた。Td/Te は悪性で 0.77 ± 0.09 , 良性で 0.97 ± 0.28 と良性の方が有意に高かった。Nd/Ne は 1.4 より高く, 筋肉を含む健常組織は明らかに後期像にて早期像より高い集積を示していた。 ^{201}Tl -SPECT は良悪性の判定に非常に有用であった。視覚的評価では後期像が必要であるが, 定量評価では ER が重要であった。

(核医学 36: 219–228, 1999)